



SOS 子どもの村
JAPAN

NEWS LETTER 03

【発行責任者】保科 清 【事務局】〒810-0054 福岡市中央区今川2-14-3 3F 【Tel】092-737-8655 【Fax】092-737-8665

NEWS
01

子どもの村福岡 ファミリーレポート

現在、子どもの村では、4つの育親家庭で15名の子どもたちが育っています

「わが家の子ども日記」～松永家～

慌ただしい生活の中で、こどもたちの楽しいことばや成長の様子を書きとどめておこうと始めた、わが家のこども日記。今では、もう7冊目。書くのは、育親・SOSおばさん・時々こどもたち(落書き)。その中からご紹介。

平成24年12月6日 Tちゃん初歩。

カーペットの上、手をついてお尻が上がりゆっくり立ち上がると(ここまではいつも通り)初めの1歩、そして2歩目…でバランスを崩してこけていました。「歩けたね！すごい！！」ってみんなで喜んでいて、得意気に何度も挑戦していました。

平成26年10月20日 9月から一緒に暮らし始めた4歳のMくん。

いつも一緒に遊び、ごはんを食べ、生活のお手伝いをしてくれる大好きなSOSおばさんが「おはようございま～

す！」と家に入ってくると、近づいていって「おかえりなさい！おはよう！」とごあいさつ。一瞬あれ？と不思議なことばに思いましたが、家族の一人として心の中にある存在なんだなと、慌ただしい朝の時間になんとか温かい気持ちになりました。

これからも温かい家族のこども日記を綴っていきます。



「わが家の誕生日会」～阿南家～

2年前にファミリーホームになり、その時1歳・2歳・3歳・5歳・6歳だった子どもたちも3歳・4歳・5歳・7歳・8歳となりました。積み重ねた2年は、子どもたちの繋がりをよりしっかりしたものにしてきたなと思います。子どもたちの描く絵には必ず5人の顔が並び、買い物に行っても自分の欲しい物はもちろんだけど「○○ちゃんの○○がな

いよ、買わない」と言う子どもたちです。

そんな子どもたちの誕生日には、その子のリクエストが夕食に並びます。お子様ランチやオムライスになると、立てる旗作りを8歳の子がするのも恒例で、誕生日会のコーディネートを色々しています。自分の誕生日の時も張り切って準備をしていました。部屋はみんなが作った輪つなぎで飾られ、子どもたちが思い思いに描いた絵と手作りの品がプレゼントされます。そして育親からのプレゼント。我が家は8月から5ヶ月間誕生日が続きます。だから「次は○○よ」と言って、みんな誕生日を何よりも楽しみにしています。

2歳だった男の子も1ヶ月前から「もうすぐ3歳」と言って、台所の引き出しを開けてはロウソクを手にして「誕生日の時に使うとよね」と言って楽しみにしていました。そして祝ってもらう子どもは勿論、祝う方も何とも言えない、いい顔をしています。最高の笑顔が撮れるのも誕生日かもしれません。



NEWS
02

子どもの村のいま

2014 年秋の活動報告と新しい年 2015 年の取り組みのご紹介

子どもの権利条約批准 20 周年記念フォーラム「フォスターケアと子どもの権利」開催

SOS 子どもの村 JAPAN が開催する東京フォーラムも 3 回目を迎えました。昨年 11 月 22 日(土)、特定非営利活動法人 IFCA(International Forster Care Alliance)の協力を得て、「フォスターケア(里親養育)と子どもの権利」をテーマにフォスターユース(*)の声に耳を傾け、子どもの権利を尊重した社会的養護の在り方を考えるフォーラムを開催しました。

当日の参加者は福祉現場の方や研究者、市民の方々などで静岡や名古屋など遠方からの参加もあり、熱気溢れるものとなりました。フォーラムでユースメンバーが語った『自分の物語』は参加者の心に響き、今後改善すべき課題を見いだすことが出来ました。

IFCA の本部はアメリカのシアトル。日米のフォスターユース 10 名が協働して、グローバルなレベルで子どもの福

祉の変革を目指しています。福岡のユースの方々にもこの活動を届けたいと思う一日でした。

※IFCA では、「フォスターユース」を「社会的養護の中で育った若者」と定義しています



フォスターユースのメンバーとのシンポジウム

草の根セミナー in 渋谷 (11 月 21 日)

東京フォーラムにあわせ、全国の方にも子どもの村を知っていただくための『草の根セミナー』を東京渋谷で開催しました。東京では初めての『草の根セミナー』でしたが、準備期間が約 10 日間という短い期間にも関わらず、無料スペースのご提供や開催告知など、多くの方々のご協力により、20 名以上の方にお集まりいただきました。少しずつですが、子どもの村が取り組んでいる社会課題を多くの方に知っていただけるよう、これからも地域を問わずセミナーを開催できればと思っています。

福岡では出張セミナーも行っておりますので、地域の集まりや社内研修などにも気軽にお呼びください。



渋谷のプロミス イベントスペースにて開催

チャリティーリサイタル開催 (1 月 17 日)

子どもの村支援ヴィオラコンサートを開催して下さった萬年順子さんに寄稿いただきました

「人生は人との出会いで豊かになりますねー

出会えるように、一歩前に出ましょう！」

67 歳の誕生日を迎え、年金生活で何も活動しないのはとても苦痛、でも何かを始めるとやはり老いを感じます。一人でも多くの方にクラシック音楽の素晴らしさを伝えたいと、35 年企画をしてきました。主人からは『岩に種を撒くようなもの』と言われましたが、岩と岩の間からも芽は出てくることを信じて続け素晴らしい演奏家との出会いが次から次へと広がっていきました。感性は芸術に接することによって磨かれると思っています。



萬年 順子さん

娘から『子どもの村福岡』の話聞いて、私に出来る事はコンサートを企画することと思い、ヴィオラのコンサートを企画しました。感動のあまり涙ながらに抱きついてくる方もありました。音楽の力は凄いですね！楽譜は世界共通の言葉、音楽しっかり楽しみましょう！

NEWS
03

子どもの村応援団

博多エクセルホテル東急の取り組み

“親と一緒に暮らせない子どもたちのことは、
他人事ではありません”



博多エクセルホテル東急の伴孝之さん

「あったかいホテルに」と笑顔が
素敵で、ユーモアのある伴さん

2月初旬、博多中洲のホテルを訪問。子どもの村への支援のきっかけについて、マーケティングマネージャーの伴孝之さんにお話を伺いました。ホテルは、1992年、東急グループ（本社は東京）の一員として博多中洲で創業、現在60名のスタッフで運営されています。

「コミュニティーに根付いてこそ、その存在価値が上がる。」との考えから、地元につながる社会貢献活動に積極的に取り組まれ、東急ハンズさんをはじめとした福岡の東急グループで、子ども向けのイベントを年に数回、開催されています。そんな中で、子どもに関わる地域貢献として子どもの村への支援もスタートしました。募金箱の設置や、会議室の提供、社員の方へ向けた子どもの村セミナーの開催等、とても丁寧で細やかな支援をいただいています。伴さんは「ホテルの敷居を下げて、お客様にとって身近な場所でありたい」とお話しされ、その言葉通り、スタッフの皆様の温かさが伝わる素敵なホテルでした。

NEWS
04

スタッフから一言

一年を振り返って

“SOS おばさん” 松岡啓子さん
“センタースタッフ” 田原正則さん

子どもとゆっくり関わりたいと勤め先を辞め、子どもの村に入職して1年が経とうとしています。子ども達どのように関わっていくかを研修や日々の仕事の中で村のスタッフの方々から教わり、学ぶことができました。毎日あせり、戸惑いの連続でしたが、こんな私でも子ども達から見ると SOS おばさんの一人。スタッフの方々の「慣れましたか?」の温かい言葉が嬉しく心に残っています。これから、また身も心も引き締めて仕事をしていきたいと思っています。



松岡 啓子さん



田原 正則さん

今津の地に来て早くも1年、子どもにとって特定の大人との愛着形成の必要性を確信しました。家庭的環境の中で子ども達は毎日成長しているのを実感しています。社会的養護の子ども達にとって、よりベターな環境であると感じ、毎日『子ども達にとって何が良いのか』を千思万考しています。また、祭り・行事が大好きで、地域の方に声をかけていただける事がすごく嬉しいです。地域と共に子ども達を育てていきますので、よろしく願いいたします。

こぼら通信

子どもの村ボランティア 上田理絵さん

看護師として、日々子どもと関わる中で、子どもにとっての親・家族の存在の大切さを痛感しています。一方で、親元で暮らせない子どもたちはどのような環境で、どのような思いで生活しているのかを考えるようになり、医療と福祉の両面から子どもについて学びたいと思い、子どもの村のボランティアに参加しました。

1月に開催されたこぼら(子どもの村ボランティアネットワーク)の新年親睦会では、ボランティアの皆さんが子どもたちの成長を楽しそうにお話しされ、『子どもが好き』という共通点での繋がりがとても温かいと思いました。一人で参加して心細いと思ったのは一瞬で、参加してよかったと心から思えた親睦会でした。



こぼらの新年親睦会

☆こぼらの Facebook に「いいね！」をお願いします。 <https://www.facebook.com/soscv.vn>

NEWS

05

広がる支援の輪

継続のご支援は、子どもの村の活動にとって大きな支えです

募金活動レポート 大濠聖母幼稚園

子どもの村法人事務局の近くにある大濠聖母幼稚園の子どもたちから定期的に募金をいただいています。幼稚園で設けられた「おにぎりの日」に子どもたちが、その日のおかず代の中から気持ちを募金するという取り組みをされています。募金は、子どもたちの気持ちのこもった色とりどりの折り紙に包まれていて、お気に入りの紙に包んだり、絵を描いた折り紙に包んだり、シールを貼ってくれたりとさまざま。子どもたちがいろいろと工夫をこらして、小さな手で募金をしてくれたと思うと、本当にありがたい気持ちになります。

子どもたち、保護者のみなさま、先生方、継続したご支援に心から感謝申し上げます。



色とりどりの折り紙やお気に入りの包み紙に入った募金

九州フォーラム開催のご案内

社会的養護の質を問う
～子どもの権利にもとづく実践とは～

日時:3月28日(土) 10:00～16:00
会場:福岡市子ども総合相談センター
参加費:2,000円



日本の社会的養護において、一定の質の確保、向上をめざすため、EU(欧州連合)における、社会的養護のすべての段階における質の基準を定めた“Quality 4 Children”(Q4C)について、フォスターユース(社会的養護の中で育った若者たち)とともに学ぶフォーラムを開催いたします。九州初の企画です。

詳細は、WEB 又は同封のチラシをご覧ください。

育親 (いくおや)・SOSおばさん募集

育親は、子どもの村で子どもたちと生活し、子どもたちを育みます。子どもの人生の核をつくる時期に、子どもに寄り添い続ける重要な仕事を担います。

SOSおばさんは、親戚のおばさんのような立場で育親家庭を家族ごとサポートする大切な存在です。(要保育士等資格・または相応の経験)

関心のある方、応募をご希望の方、詳細は事務局までご連絡ください。

(NPO 事務局 TEL:092-737-8655 担当:橋本)

◆子どもの村所在地:福岡市西区今津

SOS子どもの村 JAPAN 副理事長

満留昭久先生を偲んで

〔2015年2月6日 逝去〕

満留昭久先生は、2006年に「子どもの村福岡を設立する会」の理事長に就任され、子どもの村設立のため、あらゆる課題に先頭に立って働いてくださいました。そして2010年、「すべての子どもに愛ある家庭を」のスローガンの下に、子どもにとって生きる土台である「愛着の絆」を保障する“SOS子どもの村”が日本で初めて福岡に開村しました。夢のような計画が先生の下にひとつのエネルギーとなりました。

開村の日、先生は多くの支援者や地域の方への感謝とともに、この門出をマザーテレサの「大海の水の一滴」のたとえを借りて、「この村は日本の社会的養護という海では一滴の水にすぎないかもしれませんが、しかし、その水は日本中に広がっていくと信じています」と述べられました。これからも私たちは、大海の一滴として子どもの村を発展させていきたいと思っております。

満留昭久先生、長い間本当にありがとうございました。子どもたちとともに心よりお礼申し上げます。

(常務理事 坂本雅子)